

学術事業報告

学発番号：第13-003号

研修会名：臨床化学免疫血清-微生物分野 研修会

日 時： 2013年4月30日(火)18:30～20:30

場 所： 京都保健衛生専門学校

主 題1： 結核感染診断検査T-スポット. TB検査の原理、適正について

講 師1： 中尾倫孝氏(オックスフォード・イムノテック株式会社 代表取締役)

主 題2： L-FABP(尿中L型脂肪酸結合蛋白)の紹介

講 師2： 堀佳治氏(シミックホールディングス株式会社 L-FABP事業部)

参加数： 総人数29人(正会員23人)

報告者： 山田 幸司(京都府立医大病院)

以下、講演内容など

主題1:従来日本で行われてきたツベルクリン反応に代わる検査として、IGRA検査という血液検査による結核感染診断が定着してきました。一般的に使われてきたのはクォンティフェロン(QFT)でしたが、昨年10月から薬事承認されたT-スポットが普及してきました。QFTに比べ判定保留が少なく、採血が容易なので職員検診等で利用しやすいといわれています。主題2:L-FABPは2011年8月から保険適用になった腎疾患のバイオマーカーです。従来のマーカーは細胞の破綻によって出現するものでしたが、L-FABPは尿細管の虚血や酸化ストレスによって尿中に排出されるため早期診断に有用であるとされています。